

インシデントカンファレンスの導入 ～インシデントレポートに対する意識付け～

【はじめに】 ハイน์リッヒの法則では、重大な有害事象の裏に潜む軽微な事象を把握することがいかに重要であるかを解いている。しかし、当院手術室においてはレベル0のインシデントレポートが殆ど報告されていない現状を踏まえ、インシデントレポートについての必要性の理解や、フィードバックの為のカンファレンスの導入を行うことで、インシデントレポート報告の件数が増加し、重大な有害事象も防止できると考え本研究に取り組んだ。

【方法】 当院手術室職員に対し、インシデントレポートの報告状況やインシデントレポートに対する理解度や、どのような意識を持っているかなどを把握する為に事前アンケートを実施した。その後、インシデントレポートに関しての勉強会及びインシデントカンファレンスの導入を行い再度アンケートを実施した。勉強会及びインシデントカンファレンスの導入前後の職員の意識の変容や、インシデントレポートの報告件数などを前後のアンケートを中心に比較検討した。

【結果・考察】 インシデントレポートについての勉強会の実施やカンファレンスの導入は、インシデントレポートに対するマイナスイメージを払拭し、報告の必要性を理解する機会となり、インシデントレポートレベル0の報告件数の増加と重大な有害事象を防止することができた。